【倫理】

～ClassPad.net の授業支援機能・各種ふせんを活用する～

日本思想における「個人」と「世間」の関係を考える授業

様々な日本思想をもとに、現代の人間関係や SNS 社会のあり方を分析して理解する。

【本授業の目的・狙い・到達目標】

教師向けの目標：日本の風土や歴史の中で培われた「人間観」や「自己観」を、西洋近代的な個人主義と比較させながら理解させる。

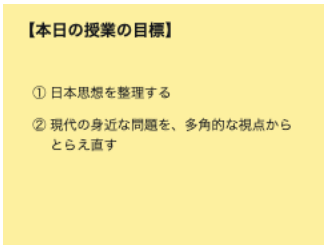
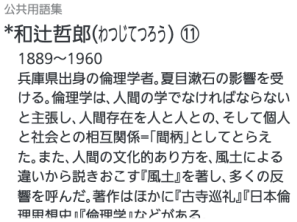
生徒向けの目標：多様な思想を整理し、現代の「空気を読む文化」といった身近な問題を、多角的な視点から捉え直す。

【ClassPad.net 活用によるメリット】

・**探究学習促進**：異なる思想的立場から現代の問題を分析する活動を通じて、多角的な視点と批判的思考力を養うことができる。

・**協働学習促進**：同時編集機能により、思想をグループで相談しながら言語化・図解することでお互いの解釈を共有し、それらを深めることができる。

・**課題の配布→回収→管理→添削→返却の効率化**：授業支援機能を使えば、全てのアクションが容易。

		授業の流れ	ClassPad.net での操作
step1		**概要の説明** 「『空気を読む』ことは優しさか、弱さか」という問いを投げかける。 日本思想(和辻哲郎・夏目漱石)の手がかりを用いて、この問いに対する自分なりの答えを見つけることが目標であると伝える。	課題が書かれたテキストふせんを一斉配信で生徒全員の端末に送信する。生徒はそれを受け取り、授業の最後に自分の考えを書き込むための準備とする。
step2		**基礎的な事項の確認** 以下の 2 人のキーワードを中心に、その人間観・思想を Ex-word で確認する。 ①和辻哲郎(『風土』『倫理学』) キーワード：「間柄的存在」「人間(じんかん)」 →人は関係性の中に存在する ②夏目漱石(『私の個人主義』) キーワード：「自己本位」「則天去私」 →他人に左右されず、自己の内面に従う	生徒はテキストふせんを使用し、教師の説明を聞きながらキーワードの意味を自分の言葉で整理する。（例：和辻＝「和」、漱石＝「個」など色分けして整理）

step3

◎　グループにわかれよう

・「和辻哲郎派(関係重視)」

「夏目漱石派(個人重視)」

の立場にわかれてもらいます

導入・課題の共有

クラスをいくつかのグループに分け、各グループに「和辻哲郎派（関係重視）」または「夏目漱石派（個人重視）」のどちらかの立場を割り当てる。

現代的課題の提示
「SNS のグループチャットで、気の進まない誘いを受けたとき、どう反応するのが正解か？」
A.「既読スルー」
B.「嘘でも同意する」
C.「はっきりと断る」

「SNS トラブルの事例」が書かれたテキストふせんを教室全体に提示する。
生徒は、自分たちの割り当てられた思想に従って、この問題への対処法を考える準備をする。

step4

【個別学習】（5分間）

Step 3におけるA~Cの中から、自分が最も適切だと考えるアクションを選択しよう。

【考え方】
和辻派：「関係性」を大切にするためには？
漱石派：「個人の心」を尊重するためには？

＜条件＞
・**教科書や配布資料、用語集のキーワードを必ず2つ以上使用する**

個別学習・グループワーク

まずは、個人で具体的なアクションとその理由を５分間考える。
その後、割り当てられた視点を通して、課題についての議論をグループ内でおこなう。

＜条件＞
・それぞれの思想の立場から考える。
・教科書や配布資料、用語集のキーワードを必ず２つ以上使う。

グループワーク機能を使用してデジタルノートをグループで共同編集し、意見をまとめる。
また、生徒は手書き機能を活用し、視覚的に思想の違いを表現する。

step5

【議論】

和辻派グループ × 漱石派グループ でペアリング

それぞれの解決策を発表し合う

お互いの策の「長所」と「短所（懸念点）」を指摘し合う

議論・発表

和辻派グループと漱石派グループがペアになり、それぞれの解決策を発表し合う。議論をおこなうことで、お互いの解決策の長所と短所について、それぞれ考え、深める。

各グループが作成したふせんあるいはデジタルノートを、授業支援機能を活用し、クラス全体に共有する。
生徒は他グループの発表を聞きながら、良い点や反論をテキストふせんに書き、送信することで、リアルタイムの意見交換を行う。

step6

【 和辻哲郎の解説 】

・「人間」と書いて「じんかん」と読む
→単独では存在できない、他者との「間(関係性)」の中に生きている事実

SNSの課題への応用
→単に我慢して「嘘でも同意する」ことは、本当の意味での信頼関係を築けているのか？

→相手との「間柄」を壊さず、どう折り合いをつけるかを考えるのが和辻流

※「我慢を強いる」という考え方ではない

用語と解釈の再定義

生徒がワークで使用した用語の使い方が合っていたか、教師が解説をおこなう。

◯和辻哲郎の「人間(じんかん)」
誤解：単なる「同調圧力」や「我慢」
正解：人は一人では生きられないという「事実」の受容。他者との信頼関係の中にこそ、私の居場所がある。

◯夏目漱石の「自己本位」
誤解：わがまま、自分勝手
正解：他人の評価ではなく自分の良心に従うこと。「他人の個性も尊重する」という倫理性がセット。

教師は「どちらも実は『他者』を大切にしている点では同じではないか？」という視点を投げかける。
また、同時に「和辻は漱石の思想に大きな影響を受けている」という事実も伝える。

教師はあらかじめ作成した本来の意味についてまとめたファイルふせんを、一斉送信機能で生徒全員に配布する。

※グループワークのノートブックに受信する場合は代表生徒が行う。
各自が操作すると同じふせんがノートブック上に乱立することになる。

step7

【議論】

クラス内の「和辻派」「夏目派」の分布はどうであったか。

もし全員がどちらかの考えによっていたら、どのようなことが想定されるか。

思想の分布図の作成

今回の SNS 事例において、クラス全体がどれだけ「和辻より」「漱石より」であったかを可視化する。
また、「もし全員がどちらかの考えによっていたら？」という質問をおこなうことで、教員は極端な社会の生きづらさを想像し、バランスの重要性に気づかせる。

各グループから提出された「解決策」のふせんを、電子黒板上で並べて比較表示する。

step8

【まとめ】
二つの思想の共通ゴール
→「他者とどう共生するか」

和辻哲郎：まず「関係性」があり、その中で生かされる「個」を見つめる。（関係性 → 個へ）
夏目漱石：確固たる「個」を確立し、その上で他者を尊重する。（個 → 関係性へ）

※和辻は若いころ、漱石の自宅(漱石山房)に出入りするなど漱石の思想から影響を受けている。

まとめ・宿題

まとめ
「思想に正解はないが、自分が一番『納得できる』生き方を選び取ることが、倫理の授業で最も大切なこと」であるという点を教師は生徒に向けて発信する。

宿題
「今日の議論を踏まえ、冒頭の問い（空気を読むことは優しさか弱さか）に対し、あなたの考えを 200 字以内で提出せよ」

生徒は提出ボックスに提出して授業を終了する。